

5歳児 さくら組 保育指導案

在籍数 男児16名 女児19名 計35名
指導者 担任 今野 裕美
副担任 後藤 恵子

1 幼児の実態 ★…研究との関わり

<生活習慣>

・園生活に期待をもち、登園すると一日の流れをホワイトボードで確認し、時計を見て時間までに所持品の始末を済ませて集まる。また、昼食や降園準備などの毎日行う活動は、自分たちで声を掛け合って準備を進めている。

★3学期、新しい生活グループになって、当番活動や食事の準備などの身の回りのことに取り組んでいる。同じグループの友達が分かり、忘れていたことを教えたり、声を掛け合って準備を進めたりしている。

<遊びへの取組>

★校庭では、友達と誘い合ってドッジボールや鬼ごっこなど、チームに分かれて行う遊びを楽しんでいる幼児が多い。グループ分けをしたり、遊びの場を用意したりするなど、自分たちで遊びを進める場面が増えてきている。

★コマ回しや長縄跳びなど、自分で難しいと感じたことにも挑戦しようとする気持ちを持ち、繰り返し取り組む姿や、友達と教え合いながら遊ぶ姿が見られる。友達に自分の得意なことを教える際は「いいね」「さっきよりもうまくできているよ」など、肯定的な言葉をかける幼児が多いが、中には友達に対して否定的な言動を取る幼児もいるので、個別の援助が必要である。

なかなかうまくいかないことに対して、途中であきらめてしまう幼児も数名いる。学級全体で取り組む機会を設けたり、個別に援助したりしながら努力する姿を十分に認めることで、少しずつ取り組むようになってきている。

<学級全体の取組>

・凧作りでは、ほとんどの幼児が最後まで自分の力で作ったという達成感を味わっていた。また、校庭で風を感じながら友達と一緒に凧揚げをすることを楽しんでいる。

・1学期から組んでいる楽器を使ったリズム遊びは、三学期になって、扱う楽器が増え、様々な楽器と一緒に鳴らしたり、異なるリズムで鳴らしたりすることの楽しさを感じ始めている。

・学級での活動の際、全体的には内容の理解や静かに話を聞くことなど身に付いてきているが、集中するまでに時間がかかったり、理解するために個別に援助の必要な幼児もいる。周りの幼児が教えたり、手伝ったりする姿も多く見られる。

2 期のねらい IV期（1～3月）

○自分の役割に責任をもち、自分で考えて行動する。

○友達と一緒に遊びを進めながら、互いのよさを認め合い、つながりを深めていく。

○修了の喜びや就学への期待をもち、自分の力を発揮し、学級の目的や課題に向かって、友達と協力して取り組み、達成感や満足感を味わう。

3 週のねらいと内容

○健康に過ごすために、手洗いや衣服の調整などを自分から行う。

○遊びの中で、友達のよさを受け止め、励ましながら遊ぶことを楽しむ。

○みんなで音楽に合わせて様々な楽器を鳴らしたり、体を動かしたりする楽しさを味わう。

・感染症の予防に必要なことが分かり、自分からすすんで行う。

・友達のアドバイスを素直に聞いて取り組む。

・自分がされて嬉しいことを友達に行う。

・楽器の鳴らし方、音色の違いに気付き、自分なりに試す。

4 本時のねらいと内容

- 遊びのめあてをもち、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
- 友達と一緒に遊ぶ中で、友達の頑張る様子に気付き、認めようとする。
 - ・同じチームの友達と思いを伝え合う。
 - ・友達のよい動きを真似しようとする。

5 展開

**<健康な体と強い心を育てるための
5歳児 指導のポイント>**
遊びにめあてをもち、チャレンジしたり、
友達と互いのよさを生かし合ったりする。



【ネコとネズミの鬼ごっこ】

<活動選択の理由>

同じチームの友達と作戦を考えたり、「仲間を助けたい」「宝(魚)をたくさん取りたい」と共通のめあてをもつとともに、走ることや相手を見ながら逃げるなど、自分の力を発揮しながら遊ぶことができると考えた。

<予想される幼児の姿>

- ・相手や仲間の動きを見て動く。
- ・宝を取る、仲間を助けるなど、役割分担したり、状況に応じて動き方を変えたりする。
- ・助けてくれた友達にお礼を言う。

【ドッジボール】

<活動選択の理由>

一学期から継続して遊んでいる遊びであり、友達の得意、不得意なことに気付いたりしている。自他の得意、不得意なことを受け入れながらも、一緒に遊ぶ友達とのつながりを深めてほしいと考えた。また、勝敗のつく遊びであることから、友達と共通の目的に向けて、相談したり、協力したりして遊んでほしいと願いこの活動を選択した。

<予想される幼児の姿>

- ・友達と話し合っ、元外野や作戦を決めたりする。
- ・相手チームの友達と挨拶をする。
- ・相手やボールの動きを見て動く。
- ・友達を応援したり励ましたりする。

6 評価

- 一人一人が遊びのめあてをもち、体を動かして遊んでいたか。
- 友達のよい動きを自分なりに取り入れようとしていたか。

7 本園の「特別の教科道徳 内容項目につながる姿」と関連した評価

- 【意 欲】好きなことを繰り返して遊ぶとともに、苦手なことにも諦めずに取り組んでみようとしていたか。
- 【思いやり】友達と考えを伝え合いながら遊びを進めることを楽しんでいたか。

本園の『特別の教科道徳 内容項目につながる姿』 より

A 主として自分自身に関すること

【個性の伸長】(キーワード: ●意欲)

得意なこと、好きなことを繰り返すとともに、苦手なことにもくじけずに、一生懸命取り組もうとする。

B 主として人との関わりに関すること

【友情、信頼】(キーワード: ◆思いやり)

互いに自分の考えを伝え合いながら友達と協力して一緒に遊びを進めることを楽しむ。

☆環境構成 ●意欲 ◆思いやり

- ☆ 安全に遊ぶよう、大きさや距離感に配慮して幼児と一緒に陣地を作る。
- ☆ 遊びに必要なものを自分たちで準備できるように置いておく。
- 一人一人が遊びにめあてがもてるよう、遊び始める前に、前回のことを振り返ったり、遊びの意欲につながる言葉をかけたりする。
- ◆ 作戦タイムでは、自分の考えを友達に言葉に出して伝えることができるよう、幼児の気付きに共感したり、アイデアのよさを認めたりする。
- ◆ 友達のことを応援したり、互いに声を掛け合いながら遊んだりしている姿を、声に出して認める。
- ◆ 相手を捕まえた嬉しさや助けた嬉しさなどに共感し、活動への意欲につなげていく。
- ☆ 校庭の端にコートを設定し、遠くまでボールが転がらないようにする。
- 遊ぶ幼児の人数によって、元外野の人数を調整する。
- ◆ 自分たちで遊びを進めている姿を見守り、当たった喜びやボールを取れた嬉しさなどに共感する。
- ◆ トラブルの際には教師がすぐに判断せずに、周りの幼児の意見を聞いたり、みんなで考えたりする機会をつくり、自分たちで遊びを進める楽しさを感じたり、遊びのルールを決めたりしていけるようにする。
- ◆ 幼児が友達のことに気付き、真似しようと思ったり、自分も頑張ろうと思ったりする意欲につながるよう、教師が幼児の動きを言葉で表していく。
- ◆ ボールを譲る姿や相手を取りやすいようにパスする姿、ルールを守っている姿などを十分認めていく。